

学校統廃合事例・小中一貫教育の事例紹介

■新庄市立明倫学園 別添パンフレット参照

統合対象校 小学校2校、中学校1校（沼田小学校、北辰小学校、明倫中学校）

(児童生徒数) 596人

(通常学級数) 小学1～4年 各2学級、小学5～6年 各3学級、中学生 2～3学級

以下 令和5年度 新庄市総合教育会議「これからの義務教育学校について」より抜粋

義務教育学校「萩野学園」「明倫学園」— 新庄市「小中一貫教育」の推進 —

■新庄市の教育

I 学校教育の重点

- ◆ 社会を主体的に生き抜く力を育む学校教育の推進
- ◆ 地域に根差した学校づくりの推進 ⇒ 「小中一貫教育」において実現していく
- ◆ 安全安心な教育環境の整備

II 小中一貫教育のあゆみ

平成17年3月 「新庄市長期教育プランいのち輝く新庄もみの木教育プラン21」が策定され、小・中一貫教育の導入の検討が始まる。

平成18～19年 「市内5中学校区」に小中連携の在り方の実践研究が委嘱され、小中一貫教育の実践がスタート

「小中連携」から「小中一貫」へ

平成22年3月 「新庄市小中一貫教育基本方針」策定

平成24年3月 「新庄市小中一貫教育基本計画」策定

平成26年3月 「新庄市小中一貫教育推進協議会」設置

平成27年4月 「萩野小学校・萩野中学校」（萩野学園）開校【現在11年目】

平成28年4月 学校教育法が改正され義務教育学校※「萩野学園」となる

令和3年4月 義務教育学校「明倫学園」開校【現在5年目】

※「義務教育学校」とは、1人の校長と1つの教職員組織のもと、9年間の目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成する学校

■文部科学省 小中連携、一貫教育に関する整理

「小中連携」…小・中学校が互いに情報交換、交流することを通じ、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

「小中一貫教育」…小中連携のうち、小・中学校が9年間を通じた教育課程を編成し、それに基づき行う系統的な教育

2 小中連携、一貫教育の推進について

- (1) 目的 小・中学校教職員が義務教育9年間の教育活動を理解することで、9年間の系統性を確保し、教育基本法、学校教育法に新たに規定された、義務教育の目的、目標に掲げる資質、能力、態度等をよりよく養えるようにしていくことは、すべての小中連携、一貫教育に共通する基本的な目的

- (2) 効果 中学生の不登校出現率の減少（中一ギャップの減少）、学力調査における平均正答率の上昇、児童生徒や教職員の意識面の変化等の成果の普及

資料 4

■新庄市立明倫学園 義務教育学校9年間における「4-3-2」の教育システム

義務教育9年間を前期、中期、後期に区分し、特に変化の激しい中期の指導の充実を図る。

小中学校9年間を前期4年、中期3年、後期2年に区分し、発達段階に応じてそれぞれの時期で重視して指導することを明確にして取り組む。 **新庄市資料より抜粋**

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年						
特色	9年間の一貫教科カリキュラムによる指導														
区分	4-3-2 ブロック制による教育区分														
指導体制	前期	学級担任制		中期	教科担任制		後期	教科教室制							
重点	基礎充実期 繰り返しの指導や補充指導による習熟を重視。基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 			活用期 活用を重視。思考力・表現力を育成。教科担任制、一部教科担任制の実施。小中教員の交流授業等による専門的な指導やTTで、学習への興味・関心を高める。 部活動体験 (6年)			発展期 夢の実現、進路目標の達成に向けた発展的な学習の展開。課題の発見力、総合的な問題解決能力を育成する。 部活動 (6年生3学期から)								
部活動															

効果

【児童生徒】

- 日常的な異年齢交流
- 自己肯定感が高くなっている。
- 上学年が優しくなり、下学年は上学年に憧れを持ち目標としている。
- 生徒指導上の問題行動の減少
- 中1ギャップの減少
不登校の減少等
- 学力の向上

【教職員】

- 小中の垣根をなくし、義務教育学校員とて9年間見通した活動を展開できる。
- 乗入れによる教科指導が可能。主に中学校教員が小学校課程へ等

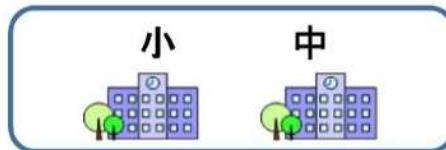
■新庄市 小中一貫教育を推進する3つの型

各中学校区における小中連携を「単線連携型」「複線連携型」「施設一体型」の3つの型において推進する。 **新庄市資料より抜粋**

上山市統廃合パターン案
で類似するもの

① 単線連携型

新庄小学校 - 新庄中学校
日新小学校 - 日新中学校



上山市
小学校 1校統合案
(小・中学校併設しない場合)

② 複線連携型

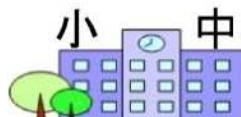
本合海小学校 - 八向中学校
升形小学校



上山市
小学校 段階的統合案
(小学校2校→1校)

③ 施設一体型

萩野学園・明倫学園



上山市
小学校 1校統合案
(小・中学校併設する場合)

■上山市の小中一貫教育の導入方法

「第8次上山市振興計画」及び「上山市教育振興基本計画」に定める「小中連携教育」を引き続き推進するとともに、児童生徒の将来推移からも、最終的な小学校1校、中学校1校への統合、学区統合は明らかであり、市民も小中一貫教育及び学校統合望んでいることから、令和8年度以降、同計画にもとづき、「小中一貫教育」の導入について検討を進めていく。

検討内容 制度（小中一貫型小学校・中学校、義務教育学校）の特徴と選択 等

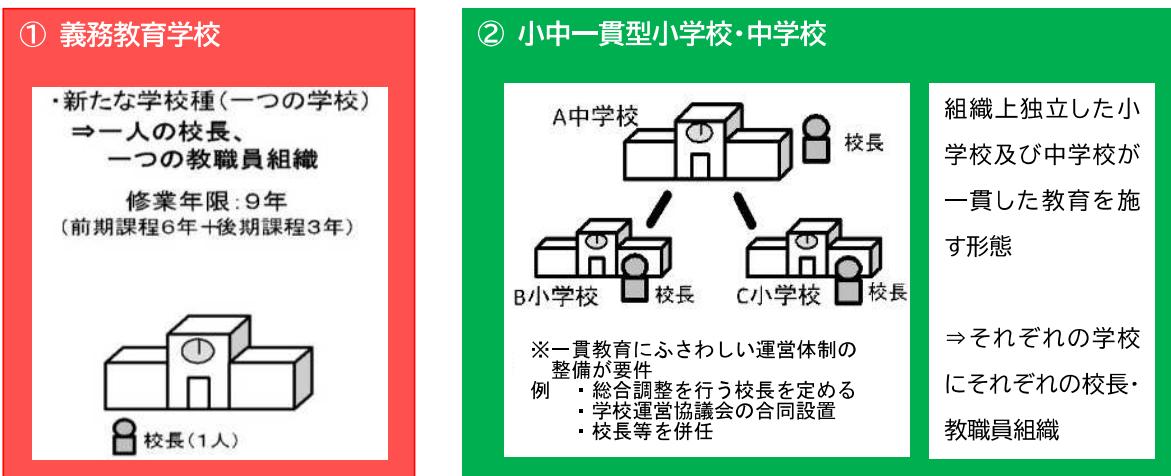
【参考】令和7年2月実施
市民アンケート 説明文・設問用紙
※P3-4 当日説明は割愛します。事前に確認願います。

■小中一貫教育とは

小学校・中学校の教員が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し系統的な教育を目指す教育です。

小学校から中学校へのなめらかな接続と義務教育9年間の連続した学びの中で、子どもたちに確かな学力を身に付けさせるとともに、一人ひとりの個性や能力を伸ばすことのために近年導入が進んでいます。組織形態・修業年限等の違いで、①義務教育学校と②小中一貫型小学校・中学校に分類されます。

■小中一貫教育の制度種類と特徴



	① 義務教育学校	② 小中一貫型小学校・中学校
特徴	新たな学校の仕組みで、小学校と中学校を1つの学校とした9年間の学校	各学校に校長がいる組織上別々の小学校(6年)・中学校(3年)が一貫した教育を行う学校
修業年限	9年(課程: 前期6年+後期3年) 9年(課程: 前期4年+中期3年+後期2年)	小学校6年、中学校3年
長所	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校教員が相互に行きできる。 ○幅広い年齢層におけるコミュニケーション力の向上が図れる。 ●長期的スパンでの教育内容や指導体制での柔軟なカリキュラム編成ができる。 ●中学校への進学に不安を覚える児童の減少が見込める。 ●中1ギャップの緩和・解消が見込める。 	<p>「中1ギャップ」とは、中学校に進学したばかりの生徒が、環境・学習内容の変化に馴染めず、不登校やいじめ等の問題が増加する現象のこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ●9年間を見越した教育内容での柔軟なカリキュラム編成ができる。 ●中学校への進学に不安を覚える児童の減少が見込める。 ●中1ギャップの緩和・解消が見込める。
短所	<ul style="list-style-type: none"> ▲9年間同じ学校でほぼ同じメンバーで過ごすため、人間関係が固定化しやすく合わなかった場合に環境を変えにくい。 ▲義務教育学校では、小1～中3までの児童生徒がいるので、最上級生が低学年児童に及ぼす影響に配慮が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ▲9年間同じ学校でほぼ同じメンバーで過ごすため、人間関係が固定化しやすく合わなかつた場合に環境を変えにくい。

問 今後の本市の学校教育への「小中一貫教育」の導入について、選んでください。

- 現在のままで良い。(教育課程は小学校・中学校でそれぞれ編成)
「小中一貫教育」を導入した方が良く(小学校・中学校で系統的な教育課程を編成)
- 義務教育学校が良い。(修業年限を9年間にまとめる)
- 小中一貫型小学校・中学校が良い。(修業年限を6年間にと3年間に分ける)

【参考】令和7年2月実施 市民アンケート結果
第3回検討委員会資料より抜粋

※P3-4 当日説明は割愛します。事前に確認願います。

■小中一貫教育のあり方について

保護者 521名 小中一貫教育が5割強



問15 小中一貫校について	(人)
現在のまま	235
義務教育学校（9年間）	116
小中一貫型小中（6年+3年）	170
計	521

■選択理由

小 中 一 貫 教 育	現在のままでよい	<p><小中一貫教育のメリット・デメリットを感じられない></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 小中一貫教育のメリット・制度自体があまり分からず、現状のままでよいと思う。 ② 具体的なメリットが把握しにくい。 ③ 現状に不満がなく、小中一貫教育のイメージができないため、今まで良い。 <p><教育の区切りの重要性></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 小学校（6年）と中学校（3年）という節目・変化が成長に繋がるので維持すべき。 ② 環境の変化や区切りが、子供の成長に必要。
	義務教育学校	<p><児童の成長と継続的な教育（連携と連続性）></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 小中一貫教育により、児童が継続して教育を受けられる環境が整うと思う。 ② 小中連携が強まり、教員間の情報共有がスムーズになる。 ③ 教職員の中學進学時の引継の負担が軽減できると思う。 ④ 児童生徒は環境変化によるストレスを軽減し、壁を越えやすくなると思う。 ⑤ 児童が長いプランで見守られ、成長を促すことができる。 <p><教育環境の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 義務教育学校によって、質の高い教育環境が提供される。 ② 教員の確保と効率的配置により、教科の専門性を生かした教育指導が可能だと思う。 <p><効率的な学校運営></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学校運営がシンプルで効率的になり、小中連携が強化される。 ② 組織が一つになることで、人件費の削減が期待できるのではないか。 <p><人間関係と多様性の育成></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 最上級生と低学年とのコミュニケーションによる新しい刺激や学び。 ② 小中の枠を超えた交流やカリキュラムの柔軟な対応が可能。 ③ 多様な考え方や人間関係を学び、成長する機会を提供できると思う。 <p><中1ギャップの緩和></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 中學進学時の大きな環境変化を乗り越えやすくし、不登校の減少が期待できる。
	小中一貫型小中学校	<p><連携の強化と効率化></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 小中一貫教育により、教員間の連携が強化され、効率的な教育が可能になる。 ② 小中連携でスムーズな引き継ぎが行われ、進学時のギャップが緩和される。 <p><学習環境の向上></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 継続的に児童を見守りながら教育できる環境が整う。 ② 義務教育学校にすることで、質の高い教育環境が提供される。 <p><効率化と費用削減></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 組織の統一により校長の数を減らし、人件費を削減する。 ② 教員の人的資源を効率的に活用できる。 <p><教育の区切りの重要性></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 小学校と中学校の区切り・切り替えが子供の成長に重要。 <p><教育の差別化、教育目標の違い></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 小学校と中学校は教育目的が異なるため、別々の学校であるべき。 ② 6年と3年の区切りが教育の質を向上させる。

